別紙1

令和4年度　学習分析事業　改善計画　三原市立第三中学校

1．本年度の結果

①学力定着分析　NRT　偏差値平均

		国語	社会	数学	理科	英語	全体
1年	前年度結果 偏差値平均						
	本年度結果 偏差値平均	49.3	50.7	50.7	51.0	50.5	50.4
2年	前年度結果 偏差値平均	50.0	51.9	50.8	53.4	48.8	51.0
	本年度結果 偏差値平均	50.4	51.6	46.7	46.8	52	49.5
3年	前年度結果 偏差値平均	46.1	46.0	46.5	46.6	46.9	46.4
	本年度結果 偏差値平均	46.7	49.6	46.6	44.6	46.3	46.8
全体	前年度結果 偏差値平均	48.2	49.5	48.1	49.2	48.7	48.7
	本年度結果 偏差値平均	48.8	50.6	48.0	47.5	49.6	48.9

③全国学力・学習状況調査　正答率平均（第3学年対象）

教科	国語	数学	理科
前年度結果 （対県比）	60.9 （94）	48．4 （85）	
本年度結果 （対県比）	68.5 （99）	46.9 （93）	44.2

2．調査から明らかになった課題

【年度当初の学力について】（NRTをうけて）

学校としての課題は，「読む力」「読む意欲」の不足，それに起因すると考えられる，「読み取ったことをまとめて書く力」の不足である。

●数学では，「分数や小数の計算」や，「文やグラフなど資料を活用して答える問題」に課題がある。何を問われているかわからなかったり，グラフの傾きが表すものがわからなかったりした結果，誤答率・無答率も高くなっているようだ。2年生の，文章から1次方程式を立てる問題では，正答率が12％だった。

●理科では，基礎的概念や科学用語の意味の定着に課題がある。3年生の，短い説明文から「誘導電流」という用語を答える問題では，正答率が16％だった。

【年度当初の学力について】（全国学力・学習状況調査をうけて）

●国語では読むこと，中でも，「部分と部分の関係性を読み取る」ことに課題がある（47.2％）。書くことの問題でも，読み取る力に影響を受けており，正答率自体は向上傾向にあるものの，読み取って答えるべき3つの条件のうち，2つしか踏まえていない解答の割合が30.4％もあった。

●数学では，データの活用，中でもデータの個数と散らばりの程度についての理解に課題がある（28．8％），複数のデータとの比較や資料の設定の理解が不十分であると考えられる。関数では，グラフが直線であることは分かっても，伴って変わる数量を，用語を使い説明することができていない（29．6％）。

●理科では，力の働きに関する知識及び技能の活用に課題がある（8.0％）。専門用語の意味の理解が不十分なためと考えられる。また，化学変化に関する知識及び技能と「エネルギー」を柱とする領域の，知識及び技能を関連付けることも課題がある（16.0％）。身近に見られる現象と状態変化を結び付けて捉えることができていないことが原因である。

3．課題解決に向けた学校組織全体の重点目標・取組

重点目標　（何を，どの程度達成するか）	達成のための具体的取組　（どのようにして）	スケジュール	検証の指標・目標
【授業改善を通した学力・学習意欲の向上】 〇 全教諭が「伝える」に力を入れ，パブリックスピーキング能力を向上させる。 〇全ての授業で「授業づくりの徹底5項目」に基づく指導[①めあての提示，②めあての焦点化，③思考時間の確保，④ペア学習・グループ学習，⑤めあてに対する振り返り]を完全実施する。 〇 全教諭が「問いの設定」を意識することで，つけたい力をより明確にした指導を徹底する。 〇各教科で培うべき知識や技能の確実定着と活用場面を設定した「生きて働く学力」を育む。 〇主体的・対話的な学習を通して「深い学び」に迫るアウトプットを重視する。	①NRTの誤答分析による実態把握と改善計画の立案 ②学校経営会議において改善計画の共有 ③全体研修による目指す授業の共有 ④一人1指導案による研究授業 ⑤授業交流週間 （1学期：3年部，2学期：2年部，3学期：1年部） ⑥非連続型テキスト問題（全国学力調査過去問題）実施　（各教科の単元末，GKタイム期間集中実施　試験形式によりフルバージョン実施） ⑦無答率の分析・個別指導 ⑧中学校区で行う授業交流週間 ⑨学力補充指導の組織的な展開とともに，生徒のアウトプット評価，変容の追跡調査による分析と指導方法の改善	①6月 ②6月 ③4月，7月，8月，11月，2月 ④通年 ⑤1学期に2週間程度 ⑥各教科単元末 　令和4年2月GK集中実施 　2月下旬，3月中旬 ⑦定期試験実施後 ⑧10月，2月 ⑨2回／月 GKテスト＋評価＋追テスト	〇 Q-U2回目の学習意欲の数値 　（全学級で全国得点+1以上） 〇 標準学力調査（3学期実施）で　全国比100を超える学年・教科を増やす。 〇定期試験等における記述型問題の無答率半減 〇進路未決定者0人 〇GKテスト合格者（追テスト含む）80%
【学級・学習集団づくり】 〇全学級において，「三中スタンダードの遵守」を徹底する。 〇全校での「三中チャレンジカップ」を通して，クラスや縦割り学級の団結力や生活規律・学習規律の向上を目指す。 〇ピグマリオン効果（教師期待効果）が実感できる生徒理解とともに，自己存在感が高まる評価や支援を実施する。	①Q-Uの分析による実態把握と改善計画の立案 ②Q-Uの分析，実態把握のために，校内研修を実施(外部講師による研修) ③学校経営会議において，各学級の実態と改善計画の共有化 ④「心の中の整理箱(アンケート)」を活用した面談により，生徒の心身の状況を把握し，早期発見と早期解決 ⑤学級目標＋「具体的行動目標」の設定と小刻みな自己評価と他者評価	①6月 ②7月 ③月々実施 ④毎学期 ⑤毎月「具体的行動目標」に係るポジティブシャワー	〇Q-U2回目において，一次支援数値の向上（全学級） 〇生徒アンケート 「先生や友達は相談できる」 「自分には良い所がある」の肯定的意識+5%